

「平成の大造営」竣工奉告祭

下関・亀山八幡宮

「平成の大造営」として昨年7月から今年6月にかけて社殿内外の改修を行った下関市中之町の亀山八幡宮（竹中恒彦宮司）で20日、竣工奉告祭があり、林方正農相や中尾友昭市長、氏子、関係者ら約1300人が出席して祝った。

同八幡宮の社殿は戦災で焼失したが、1946年2月に全国第1号という早さで復興した後、58年に現在の社殿を再建。94年に本殿の増改築があるなどしたが、総ひのき造りの神殿は再建当時のままで老朽化が著しかったため、創建1155年を迎えた昨年からの工事をしていた。

神殿の屋根の銅板をふき替えて雨漏り対策を施したほか、展望台に続く人工地盤の改築工事、石畳を持ち上げていた樹木の伐採と石畳の新設・改修、社殿外壁の修復・塗り替え、儀式殿の改修などを約1億2千万円かけて実施。全国各地の約3500人から寄付が集まったという。

奉告祭は本殿であり、竹中宮司が祝詞を奏上し、みこ2人が浦安の舞を奉納。儀式殿であった式典では竹中宮司が「このように立派に造営でき、次の時代にバトンタッチできることを喜んでいる」とあいさつ。同八幡宮総代会を代表して林大臣が「皆さんの真心の結晶。より一層神社に参っていただき、行事を盛り上げてほしい」と述べた。

同八幡宮は859（貞観元年）の創建。戦国大名の内氏や毛利氏に保護され、現在でも下関市民から「関の氏神さま」「亀山さま」と呼ばれるなど親しまれている。



「平成の大造営」を終えた亀山八幡宮＝20日、下関市